

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成19年8月23日(2007.8.23)

【公開番号】特開2007-1988(P2007-1988A)

【公開日】平成19年1月11日(2007.1.11)

【年通号数】公開・登録公報2007-001

【出願番号】特願2006-245819(P2006-245819)

【国際特許分類】

C 07 C 201/12 (2006.01)

C 07 C 205/56 (2006.01)

C 07 B 61/00 (2006.01)

【F I】

C 07 C 201/12

C 07 C 205/56

C 07 B 61/00 300

【手続補正書】

【提出日】平成19年7月9日(2007.7.9)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

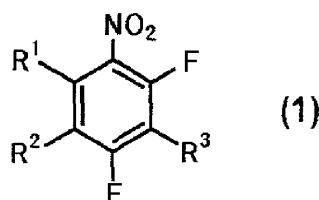
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

金属アルコキシドの存在下、一般式(1)

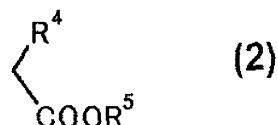
【化1】



(式中、R¹は、水素原子；置換基を有していても良い、アルキル基、シクロアルキル基、アラルキル基、アリール基、アルコキシ基又はアリールオキシ基を示し、R²及びR³は、水素原子；ハロゲン原子；置換基を有していても良い、アルキル基、シクロアルキル基、アラルキル基、アリール基、アルコキシ基又はアリールオキシ基を示す。)

で示される2,4-ジフルオロニトロベンゼン誘導体に、一般式(2)

【化2】

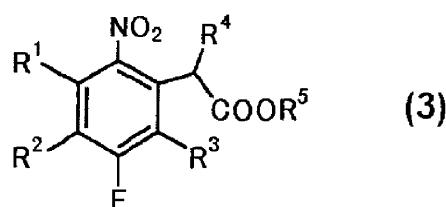


(式中、R⁴は、アルコキシカルボニル基、アラルキルオキシカルボニル基又はアリールオキシカルボニル基を示し、R⁵は、アルキル基、アラルキル基又はアリール基を示す。)

で示されるマロン酸ジエステルを有機溶媒中で反応させることを特徴とする、一般式(3)

)

【化3】



(式中、R¹、R²、R³、R⁴及びR⁵は、前記と同義である。)

で示される2-(5-フルオロ-2-ニトロフェニル)マロン酸ジエステル誘導体の製法。

【請求項2】

R¹、R²及びR³が水素原子である、請求項1記載の2-(5-フルオロ-2-ニトロフェニル)マロン酸ジエステル誘導体の製法。

【請求項3】

金属アルコキシドの金属原子が、1A族原子、2A族原子又は3B族原子である、請求項1又は2記載の2-(5-フルオロ-2-ニトロフェニル)マロン酸ジエステル誘導体の製法。

【請求項4】

マロン酸ジエステルの使用量が、2,4-ジフルオロニトロベンゼンに対して1.0~5.0倍モルである、請求項1~3のいずれか1項に記載の2-(5-フルオロ-2-ニトロフェニル)マロン酸ジエステル誘導体の製造法。

【請求項5】

金属アルコキシドの使用量が、2,4-ジフルオロニトロベンゼンに対して1.0~5.0倍モルである、請求項1~4のいずれか1項に記載の2-(5-フルオロ-2-ニトロフェニル)マロン酸ジエステル誘導体の製造法。

【請求項6】

有機溶媒が、アミド類及びジメチルスルホキシドからなる群より選択される1種以上である、請求項1~5のいずれか1項に記載の2-(5-フルオロ-2-ニトロフェニル)マロン酸ジエステル誘導体の製造法。

【請求項7】

有機溶媒の使用量が、2,4-ジフルオロニトロベンゼンに対して1~50重量倍である、請求項1~6のいずれか1項に記載の2-(5-フルオロ-2-ニトロフェニル)マロン酸ジエステル誘導体の製造法。

【請求項8】

2,4-ジフルオロニトロベンゼンにマロン酸ジエステルを20~140にて反応させる、請求項1~7のいずれか1項に記載の2-(5-フルオロ-2-ニトロフェニル)マロン酸ジエステル誘導体の製造法。